

京都府田辺町
魚田遺跡第1次・第2次発掘調査概報
-大住地区ほ場整備事業地内の調査 その1-



1997

田辺町教育委員会

序

このたび本町の北部、大住地区において、大規模なほ場整備が実施されることになりました。

この区域一帯には、魚田遺跡・新田遺跡など広範囲な遺物散布地が存在していますが、その時期や性格などはよくわかりません。

そこで、ほ場整備事業と埋蔵文化財との円滑な調整をはかるため、事前に遺跡の試掘調査を行い、遺跡の範囲や性格などを把握する必要がありました。

今回調査を実施した多くのところからは、木津川の洪水とみられる砂の堆積がみつかり、生活の跡等はみつかりませんでした。しかし、たび重なる洪水にもめげず、再びそこを耕作地として利用するという人間のたくましさを認めることができます。

最後になりましたが、今回の調査にあたりましては、土地所有者の方々、関係機関をはじめ多くの方々のご協力・ご指導をいただきましたことをお礼申しあげるとともに、今後とも埋蔵文化財に対しご理解賜りますようお願い申しあげます。

平成9年3月

田辺町教育委員会

教育長 村田新之昇

例　　言

- 1 本書は、平成8年度に田辺町教育委員会が行った魚田遺跡発掘調査の概要報告である。
- 2 本調査は、京都府が計画した大住地区ほ場整備事業にともない実施したもので、事業主体である京都府から委託を受けるとともに、農家負担分については国庫補助事業とした。
- 3 現地調査は2次に分け実施し、第1次は平成8年7月26日から平成8年10月6日、第2次は平成8年12月26日から平成9年2月12日に行った。
- 4 調査組織は次のとおりである。
- 調査主…田辺町教育委員会
　調査責任者…田辺町教育委員会 教育長 吉山 勝平（平成8年12月31日まで）
　　村田新之昇（平成9年1月1日から）
　調査指導…京都府教育委員会・京都府立山城郷土資料館・田辺町文化財保護委員会
　調査担当者…田辺町教育委員会 社会教育課 鷹野一太郎
　　同 上 烏居 幸一
　調査事務局…田辺町教育委員会 教育次長 中川 勝之
　　同 参事 古川 章
　　同 社会教育課 課長 奥田 清
　　同 課長補佐 小西ケイ子
　調査参加者…梅野佐紀・鞍元玉緒・高木克彦・平良聰弘・白数三佐代
5 調査を実施するについて、京都府山城土地改良事務所にはご協力を賜った。記して感謝します。
- 6 調査期間中及び本書を作成するにあたり、次の方々よりご教示を得た。記して感謝の意とします。（順不同・敬称略）
磯野浩光・肥後弘幸・久保哲正・橋本清一・崎山正人・樹井豊成
- 7 本書の執筆・編集は鷹野・烏居が行った。

目　　次

1はじめに	1
2位置と環境	2
3調査経過	4
4調査概要	6
5遺物	9
6まとめ	11

1. はじめに

田辺町大字松井及び大住において、府営は場整備事業が行われることになり、同地区内に所在する魚田遺跡、新田遺跡等について、は場整備事業と遺跡保存との調整をはかるための資料を得ることが必要となった。

そこで田辺町教育委員会では、京都府教育委員会と協議の結果、は場整備事業地区内の遺跡について、範囲及び状況等の確認、遺跡保存のための基礎資料作成のため、平成8年度から発掘調査を実施することとした。今年度は魚田遺跡の発掘調査を2次にわたって行った。

なお、土地所有者をはじめ、関係者の方々、作業に従事された皆さん、その他多くの方々の協力によって今回の調査が行われたことをここに記して感謝の気持ちとしたい。



調査位置図 ($S = 1:20,000$) I : 第1次調査 II : 第2次調査

2. 位置と環境

田辺町は京都府南部に広がる南山城平野のほぼ中央、伊賀山中に源を発する木津川の左岸に位置する。町の西部は生駒山地に連なる丘陵地帯で、東部は北流する木津川によって形成された沖積平野が広がっている。大阪層群からなる西部の丘陵は起伏が激しく、丘陵から東の木津川に流れる多くの小河川によって開析谷・扇状地が形成されている。またその小河川の大半は東の平野部で天井川化しており、町の景観は独特の様相を呈している。

今回の調査地は田辺町の最北端、八幡市との境にあたるが、その周辺の主な遺跡を見てもみると、まず調査地南西、田辺町松井の集落の裏山にかつては19基以上が確認された松井横穴群があげられる。ここから南東の田辺町薪、北西の八幡市美濃山にかけての丘陵地には、松井横穴群のほか、堀切・荒坂・女谷・美濃山・狐谷の各横穴群が分布している。これらの横穴群は6世紀後半から7世紀初頭にかけて築造されたとみられるが、文献から奈良時代にはこの地域が隼人の居住地であったことや、崩れやすく横穴に適さない洪積砂礫層を基盤としながらも大規模な横穴群を形成していることから、これらの横穴群を隼人集団の墳墓と推定し、6世紀後半にはこの地域に隼人が移配されていたとする見方もある。

調査地から約1.5km南東に、大住車塚古墳・大住南塚古墳が存在する。大住車塚古墳（通称チコンジ山）は周濠をもつ前方後方墳として古くから知られ、昭和49年（1974）に国の史跡指定を受けている。その南西に隣接する大住南塚古墳は以前は前方後円墳と考えられていたが、昭和61・62年（1986・1987）の田辺町教育委員会による調査で、4世紀後半に築かれた、大住車塚古墳と同じく周濠をもつ前方後方墳であることが明らかとなった。これにより、周濠をもつ前方後方墳が2基並ぶという全国的に珍しい形態であることが確認された。

調査地の西側には、魚田遺跡と同様に田辺町と八幡市にまたがって広がる新田遺跡がある。八幡市側の発掘調査では、古墳時代中期・後期の竪穴住居跡と弥生時代から平安時代にわたる遺物が、田辺町側では時期不明の掘立柱建物跡と須恵器・土師器・瓦器などの遺物がみつかっている。また、新田遺跡の北にある内里八丁遺跡は、近年の調査により、弥生時代後期末・古墳時代初頭の水田跡や、古墳時代前期・後期の竪穴住居跡、奈良時代の道路側溝とみられる溝や建物跡などが各時代の多くの遺物とともにみつかっている。

そのほか、この地域の文化財としては、式内社である松井の天神社（本殿は京都府登録文化財）・大住の月読神社があげられる。このうち月読神社には、毎年10月14日、大住隼人舞が大住隼人舞保存会により奉納されている。また、大住車塚・南塚古墳の南東、岡村の集落には元文5年（1740）に建てられ、国の重要文化財に指定されている澤井家住宅がある。



1. 魚田遺跡 2. 新田遺跡 3. 敷地 4. 敷地 5. 敷地 6. 敷地 7. 松井横穴群
 8. 大住東塚古墳 9. 大住南塚古墳 10. 口仲谷古墳群 11. 大住城跡 12. 城山古墳群
 13. 内山古墳 14. 交野ヶ原窓跡群 15. 松井窓跡群 16. 虛空藏谷遺跡 17. 狸谷(小谷)遺跡
 18. 郷土塚古墳群 19. 煙山古墳群 20. 煙山遺跡 21. 西山古墳群

周辺主要遺跡図 (S = 1 : 25,000)

3. 調査経過

今回は場整備事業の対象となったのは、田辺町大字松井から大字大住にかけての約87haであり、平成8年度から本格的な区画整備が行われるものであった。

このため調査は、平成8年度に工事を行う部分については夏に試掘調査及び本格調査を、平成9年度予定工区については、稲刈り後に試掘調査を行うこととした。

平成8年度工区は、大日本印刷の工場と防賀川に挟まれたところで、北端付近を用水路が東から西に流れる。ほとんどが畑地として利用されているところで、水田はわずかである。現地調査は平成8年7月26日に着手し、

10月6日に終了した。

調査の結果、すべてのトレンチで現耕作土下で洪水砂の堆積がみられ、北側に設定した22・24トレンチでは洪水砂の下からかつての畑の耕作にともなうとみられる溝がみつかった。また、北端付近を西流する素掘の用水路は、明治14年に製作された仮製地図でも同じ場所を流れているため、洪水砂が堆積した時期をつかむため、用水に水を流さなくなる時期を待って一部断ち割りを試みた。

9年度予定工区は、8年度工区の北側に隣接する一帯であり、8年度工区同様多くが畑地として耕作されていた。水田部分では、稲刈り後に調査可能の状態になったが、畑地についてはなお耕作されており、調査は平成8年12月26日から開始し、2月12日に終了した。

調査の結果は、8年度工区同様ほとんどのトレンチで、現耕作土下に洪水砂が堆積するものであった。対象地の東部分では洪水砂の下から耕作にともなう溝がみつかっている。なお、前述の用水路は、この工区を屈曲しながら北へあるいは西へ流れているが、わずかの区間だけ仮製地図と異なるルートをとっている。このため、仮製地図のルート上にトレンチを設定し、水路跡の確認を試みたが、洪水砂でみつけることはできなかつた。



第1次22トレンチ作業風景（北から）



第2次調査地中央から北西を望む

トレンチ配置図 (S=1:2500)

松井

4. 調査概要

(1) 第1次調査(平成8年度工区)

調査は前述のように対象地に32か所のトレンチを設定し行った。対象地はほぼ平地で、畠地として利用されており、所々一段低くなった水田地がみられる。

調査は重機による掘削で、幅2m、長さ4m、深さ1m程度のトレンチを基準としたが、部分的に深掘りを行い、造構の有無・層位の確認等状況把握につとめた。調査地の地表面の標高は最高所で15.02m、低いところで14.19mである。

調査の結果、すべてのトレンチで表土直下に洪水による砂層の堆積がみられ、その下は灰緑色の粘性細砂あるいは粘土であった。

22トレンチは、対象地の北西部に南北に長く設定したトレンチだが、ここでは洪水砂の下で東西方向のみぞ状のものが多数みつかった。スキで掘ったとみられる痕跡が明確に認められた。みぞ幅は0.5~0.7mで、20m間に26条の密な状態でみつかった。24トレンチは、対象地北東端の最高所に設定した東西方向のトレンチだが、ここでは南北方向の同様なみぞ状のものがみつかった。いずれ洪水の際に一気に埋まった状態であった。これらのみぞ状のものは、畠地に水を

引くための溝・逆に水をぬくための溝など考えたが、桑畠の耕作にともなうものであるといふ。

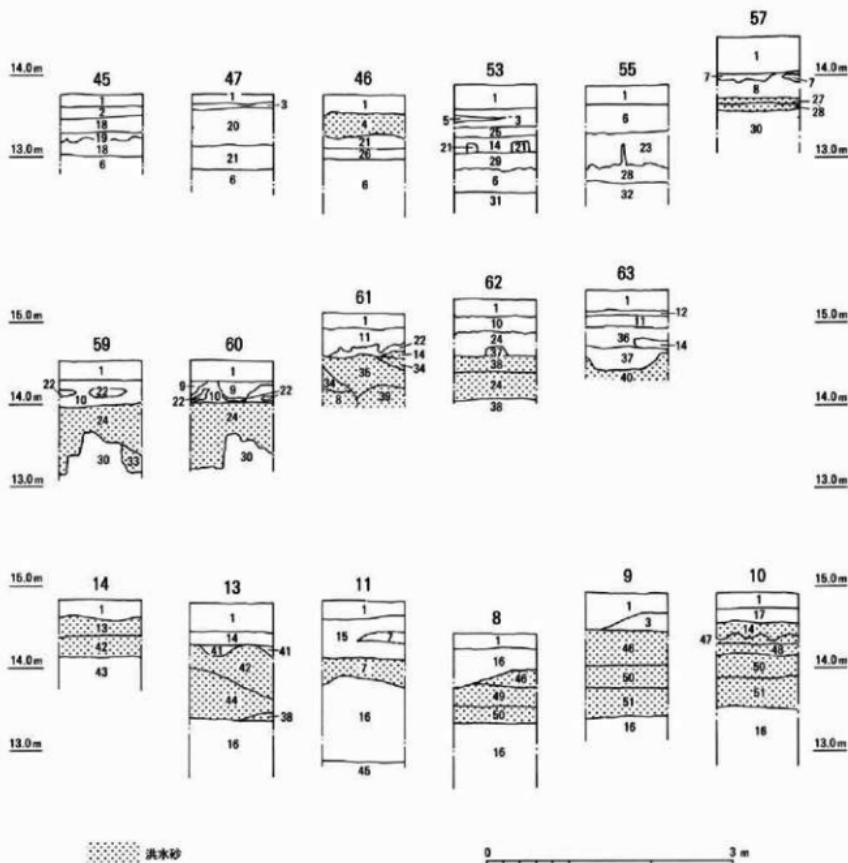
22・24トレンチともみぞ状のものを形成しているのは灰緑色粘土(部分的に粘性細砂)である。22トレンチで行った深掘りによると、この土層の下の層をつきやぶり、この土層下面で横に広がる噴砂がみられた。噴砂を八幡市等でみつかり¹³⁾ている伏見地震(1596)によるものとみた場合、灰緑色粘土の堆積はそれ以降、つまり近世となる。



22トレンチ東壁の噴砂



24トレンチ耕作溝(南東から)



洪积砂

0 3 m

- | | | | | |
|--------------|--------------|----------------|---------------|---------------|
| 1. 黑褐色土(耕作土) | 11. 暗茶褐色砂 | 21. 暗灰色粘土 | 31. 淡茶灰色砂 | 41. 淡灰青色砂 |
| 2. 黑色土 | 12. 暗茶褐色土 | 22. 淡茶白色砂 | 32. 明灰褐色砂 | 42. 白色砂、黄色砂 |
| 3. 灰色砂 | 13. 灰白色砂 | 23. 暗灰色砂质土 | 33. 茶褐色砂 | 43. 灰色粘性细砂 |
| 4. 灰色或浅褐色沙层 | 14. 淡褐色砂 | 24. 白褐色砂 | 34. 白灰色砂 | 44. 灰青白色砂 |
| 5. 明黄灰色砂 | 15. 白色、深褐色砂层 | 25. 暗灰褐色粘性砂质土 | 35. 淡茶灰褐色砂 | 45. 青灰色粘土 |
| 6. 灰色粘性砂 | 16. 灰青色粘土 | 26. 明灰褐色砂 | 36. 淡茶褐色粘性砂质土 | 46. 灰白色砂、黄色砂 |
| 7. 白色砂 | 17. 灰色砂质土 | 27. 淡茶灰色砂 | 37. 暗茶褐色粘性砂质土 | 47. 淡黄褐色砂 |
| 8. 浅灰褐色砂 | 18. 灰褐色砂 | 28. 淡黄灰褐色粘性砂质土 | 38. 茶色砂 | 48. 黄色砂、褐色砂 |
| 9. 暗褐色砂 | 19. 黄褐色砂 | 29. 淡黄灰褐色粘性砂质土 | 39. 灰褐色砂 | 49. 青灰白色砂、黄色砂 |
| 10. 棕色砂 | 20. 明灰色土 | 30. 暗灰色粘性砂质土 | 40. 淡茶明灰色砂 | 50. 灰青色砂 |
| | | | | 51. 黄白色砂 |

トレンチ土層略測図 (上の数字がトレンチ名)

(2) 第2次調査(平成9年度予定工区)

調査地は第1次調査地の北～北西に広がる。土地の区画に合わせて向きを変えながら南東から北西方向へ流れる用水路(調査時には水は流れていなかった)が調査地を二分する形で存在する。地形は台地状の高まりと低地が混在しており、基本的に台状部は畠として、低地部は田として利用されている。

調査は調査地全体に幅2m、長さ3mを基本に、のちに段差のある地形の層位や、過去の用水路の確認のために長さ10～50mになるトレンチを設定し、重機および人力で深さ1m程度掘削後、土層を主としたトレンチの状況を順次記録した。

第1次調査の範囲よりも広く、土地のレベルやその利用もまちまちであることなどから上層の状況は多様であったが、基本的な層序は耕作土の下に、洪水により運ばれてきた白灰色・黄褐色などの砂層、その下に灰色～青灰色の粘性細砂層となる。調査地の西側では洪水砂がみられず、耕作土の下に明灰色～明灰褐色の砂質土が層を成すトレンチが多くあった。

調査地東部の59・60・64・65・67～70・74・75の各トレンチで、洪水砂の下に、近世の耕作に関わるとみられる幅0.6～0.8m、深さ0.3～0.4m、南北方向に何本も延びるみぞ状造構を確認したが、それ以外に遺構はみつからなかった。遺物は中世から近世にかけての土器類の小破片がほとんどトレンチでみつかった。また、55トレンチの北壁面と、96トレンチの床面で噴砂がみつかっている。

なお、平成10年度の予定工区内にも1ヶ所トレンチを設定した(40トレンチ)が、状況は9年度予定工区西側とはほぼ同じであった。



90トレンチ（西から）



96トレンチ床面の噴砂（南東から）



調査地近景（西から）

5. 遺物

遺物のほとんどを占める土器類を図示した。大部分が小破片でみつかったため、ここに図示した土器類も11を除いて反転復元している。

(1) 第1次調査の遺物

1～5は瓦器碗である。口径は12.8cm(2)から14.8cm(5)である。どの瓦器碗も外面とともにミガキが施されており、特に外面のミガキはいずれも入念である。1と4は口縁端下内側に沈線をもつ。概ね鎌倉時代後半頃のものである。

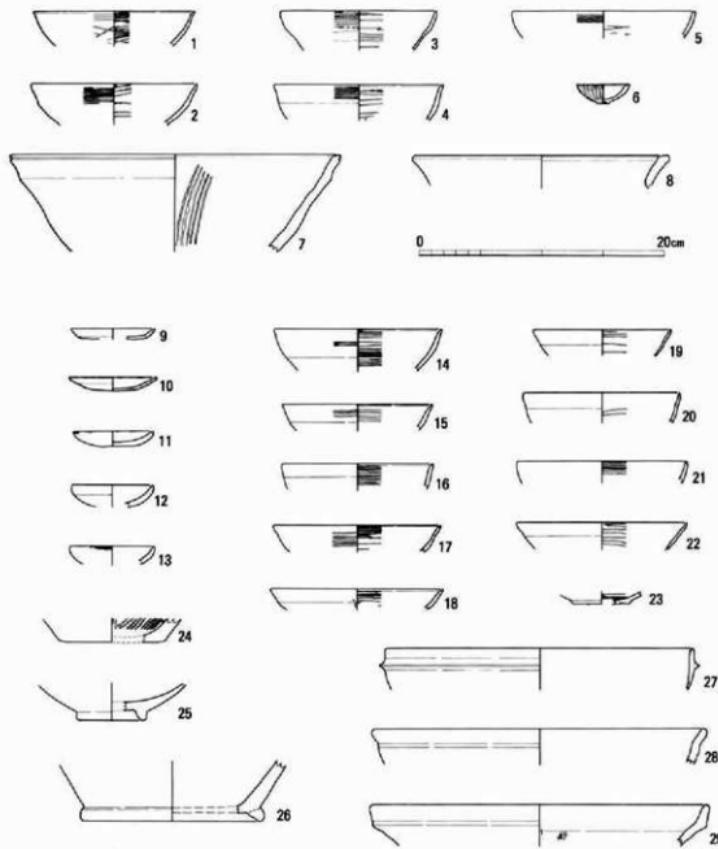
6は近世の紅皿である。内面の釉が部分的に口縁部にはみだしている。7は信楽焼のスリ鉢で、室町時代前半のもの。8は土師器カメの口縁部である。

(2) 第2次調査の遺物

9～13は土師器皿である。いずれも淡褐色系だが、9・10は薄手で口径は7cm前後。11～13は厚手で、口径は6.5cmから6.9cm。10・11・13には口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたもの。11はほぼ完形でみつかった。9は鎌倉時代後半のもの、他は近世後半のものとみられる。

14～23は瓦器碗で、うち23は底部である。口径は11.3cm(19)から14.0cm(18)を測る。いずれも内面にミガキを施し、14・15・17・18には外面にもみうけられる。14～18は口縁端下内側に沈線をもつ。23は小さな三角形の高台をもつが、高台は粗雑な造りであり、底部が高台よりも下がる。

24は瓦器のスリ鉢底部である。スリ目は5条単位。25は白磁碗底部である。外傾する高台をケズリ出している。26は底部で、灰釉陶器と考えられる。灰白色を呈し、外傾する高台を貼り付けている。27は土師器の羽釜である。28は瓦器の鉢口縁部である。29は近世の信楽焼のスリ鉢である。



第1次調査：1～8 瓦器輪（1～5）、白磁紅皿（6）、信楽焼スリ鉢（7）、土師器カメ（8）

第2次調査：9～29 土師器皿（9～13）、瓦器輪（14～23）、瓦器スリ鉢（24）、白磁輪（25）、灰釉陶器底部（26）、土師器羽釜（27）、瓦器鉢（28）、信楽焼スリ鉢（29）

22トレンチ：1～4、7 31トレンチ：5・6

32トレンチ付近表様：8

40トレンチ：27 43トレンチ：10・12 45トレンチ：21

46トレンチ：16 49トレンチ：28 54トレンチ：15 55トレンチ：23

65トレンチ：29 79トレンチ：9 84トレンチ：11 86トレンチ：18

89トレンチ：17・20・26 94トレンチ：24 95トレンチ：19

97トレンチ：13・22 98トレンチ：14 99トレンチ：25

遺物実測図

6. まとめ

今回の調査は、魚田遺跡についての最初の調査であったが、その内容はこれまで述べてきたとおりである。調査対象地のわずかな部分の調査であったが、顕著な遺構・遺物等はみつからなかった。

多数据削したトレンチのいくつかで深掘りを行ったが、それらをあわせて考えてみると、今回の調査対象地一帯の土層堆積は大きく5層になるとみられる。上から①現代の耕作土、②木津川の洪水による砂層、③洪水前の耕作土（灰色系の粘質土～粘性細砂）、④灰色ないし暗灰色粘質土、⑤黄茶褐色砂の順である。

⑤の砂層は地震で④を突きやぶり、③にカク乱されるという状況は22トレンチで確認されたものであるが、55トレンチでは⑤が④の途中まで上昇しているという状況で、基本的には対象地全体にみられるものと考えたい。



洪水砂についてであるが、調査でみつかった砂層はいつ堆積したのであろうか。今回の対象地内を、概ね東から北西へ流れる用水路は、明治14年（1881）の仮製地図にも表わされているが、一部分だけ現在と異なるルートのところがある（図のA-B、a-b間）。そこで、この仮製地図のルート上に95～98トレンチを設定したが、洪水により水路の痕跡さえ確認できなかった。このことは、洪水砂の堆積が仮製地図以降と考えてよい。『大庄村史』によれば、明治29年（1896）8月30日の洪水が被害甚大とあり、これに該当するものとも考えられる。

以上のようにおそらく中世頃から、耕作地として利用されはじめたのが今回の調査対象地と考えられるが、先人たちはたび重なる洪水や大地震とたたかいながら、土地を守ってきたものといえよう。それらの土地が、新しい耕作地として21世紀に向け土地区画整備されようとしている。

1) 肥後弘幸氏ご教示。

2) 横井豊成氏ご教示。



平成9年3月28日 印刷

平成9年3月31日 発行

魚田遺跡第1次・第2次発掘調査概報

一大住地区旧堀整備事業地内の調査 その1-

(田辺町埋蔵文化財調査報告書第22集)

編集・発行 田辺町教育委員会

〒610-03 京都府綴喜郡田辺町

大字田辺小字田辺80番地

電話 0774-62-9550

印 刷 明新印刷株式会社

〒630 奈良市南京終町3丁目464番地

電話 0742-63-0661